

## 令和4年度事業計画

### <基本方針>

設立の目的に基づき、①育成活動事業、②育成支援事業、③社会貢献事業の3つを柱として活動を行う。また、当財団の活動の認知を高めるための広報活動を強化するとともに、当財団の活動を継続していくための安定した財政基盤、人的基盤の確立のため、賛助会員入会の促進、寄付の募集、人的な支援体制の構築を行う。

### <具体的な計画>

#### 1. 育成活動事業

##### (1) 無料英語教室「西南一粒の麦 English Academy」

- 新型コロナウイルス感染拡大の先行きが未だ不透明なことから、今年度も昨年度と同様、オンラインによる開催を計画する。
- 具体的には昨年度と同じく、伊佐智史氏並びに菅原千恵氏を講師として下記の内容で開催する。
  - Zoomを使った1レッスン30分のオンライン教室を開催する
  - 毎週火曜日～金曜日の16:30～17:00に伊佐氏による教室、毎週火曜日の17:15～17:45に菅原氏による教室を開催する  
※ ただし、祝日、ゴールデンウィーク期間、8月、年末年始は休講
  - 受講生の参加可能な日時をもとに1クラス3人～5人で開催する。
  - 4月1日にミニオリエンテーションをオンラインにて開催する。
  - 4月12日(火)に開講し、翌年3月17日(金)まで年間36週、計143回の開催を予定する。
- なお、今後の新型コロナウイルス感染の状況により、従来の方法による開催の可能性が出てきた場合には、改めて検討する。

##### (2) 里親家庭、ファミリーホームで暮らす子ども達応援

- 様々な事情により、実の親と暮らせず、里親のもとで暮らす子ども達に、そういう境遇であっても強く、正しく、逞しく育ってくれるよう応援する活動を引き続き行う。
- これまで福岡市里親会の集いの場における寿司職人が握る寿司の振る舞い、落語鑑賞、各家庭への寿司の宅配と取り組んできた。この寿司振る舞いのほか、子ども達が日頃触れることの少ない体験の場を提供する取り組みを行う。その取り組みを通じ、子ども達が将来に向けて考える機会となることを期待する。

- これらの取り組みは、里親会の集いの場において行うほか、当財団主催による機会を設けての実施も計画する。

## 2. 育成支援事業

### ホークスカップ中学生軟式野球大会の支援

- 令和3年度に引き続き、令和4年度（2023年3月開催予定）に第28回を迎える本大会への後援と運営を行っている「銀風会」への支援を継続する。

## 3. 社会貢献活動

### 日本・イスラエル・パレスチナ合同学生会議への支援

- イスラエル、パレスチナは隣人同士であるにもかかわらず、相互の交流が制限され、お互いの理解も進まず、憎しみすら生まれている。当事者間の交流の不足が紛争を長引かせている一因と考え、両地域から学生を日本に招致し、共同生活を送ることで相互理解と問題解決を図ろうという大学生によるこの会議の支援を継続する。
- 現在、新型コロナウイルス感染予防の観点から開催ができない状態であるが、改めて開催決定となった際には、全面的な支援を行う。また、福岡での開催に向け、西南学院関係者に対し、実現の基盤作りを続ける。

## 4. 広報活動の強化

当財団の知名度、活動の認知度を更に高めるため広報活動を強化する。

- ① 財団ホームページの内容を再考し、広報機能の強化と内容の充実を図るためリニューアルを行う。
- ② ホームページ以外にSNSの活用を始め、活動内容を広く提供し認知度の向上を図る。
- ③ 昨年度作成した、設立5周年記念冊子「5年間の歩み」を配布する等この冊子を活用し、財団の内容を知っていただき、認知度を高めていく。
- ④ 西南学院高校同窓会をはじめ西南学院中学校同窓会、西南学院大学同窓会、学校法人西南学院へ財団の活動情報を随時提供し、財団活動への理解と認知度をあげるとともに支援を依頼していく。

## 5. 安定した財政基盤、人的基盤の確立

### (1) 賛助会員入会の促進

- 当財団の活動を継続していくため、その安定的な財政基盤の構築の一環として、当財団の趣旨や活動に賛同いただける個人、法人・団体を対象にした賛助会員数の増加を促進する。

- 事務局に賛助会員数増加に取り組む専門チームを設け、具体的な増加策の策定と実施を行う。

## (2) 寄付の募集

- 賛助会員とならずとも、当財団の趣旨や活動に賛同いただける個人、法人・団体からの寄付を引き続き募集する。

## (3) 収益事業への取り組み

- 財団オリジナルのグッズを作成し、その販売を行う。

## (4) 活動の継続、拡充のための人的基盤の充実

各事業の継続、拡充を支える人的基盤として、今春に発足させたサポーター登録制度に基づき、活動に協力、支援のできる以下のサポーターの登録を推進する。

### ①技能サポーター

里親会を通じた子ども達への取り組みにおいて、子ども達が日頃触れることの少ない体験の場の提供に協力できる職業やスキルを有し、その取り組みに参加いただけるサポーター

### ②運営サポーター

財団の各事業の取り組みを実施していくにあたって、その開催準備や当日の運営等を共に行っていただけるサポーター

## 6. 財団の効率的な運営への取り組み

- 当財団は、専従がいないうちで運営を行っている。各種会議の準備、開催、開催後の処理のほか、各活動の企画、準備及びその打合せ、実施等において、非専従であることを前提とした円滑な運営を行うための方法をICTの活用を含め検討し、実施していく。

## 7. 周年事業への取り組み

- 当財団は、4年後の令和8（2026）年に、設立10周年を迎える。設立10周年を記念する事業について検討する。